

研究所だより

第365号
2016年 9月 2日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

“夕やけ小やけで日が暮れて 山のお寺の鐘がなる
おててつないでみなかえろう からすといっしょにかえりましょ”
日本の童謡・唱歌「夕やけ小やけ」



☆2学期のスタート☆

猛暑続きで平均気温も高かった今年の夏。8月には3つの台風が関東エリアを暴風域に巻き込みながら東北・北海道を直撃。中でも3つ目の台風10号は迷走し、結果甚大な被害をもたらしました。また、地震も国内外を問わず発生しています。各校におきましては、災害に備えての準備・訓練を徹底していきましょう。

（「高知県南海トラフ地震対策推進週間」8/30～9/5）

長い夏休みも終わり、児童生徒の元気な顔、声が学校に戻ってきたことでしょう。休み中、リオ・オリンピックもあり睡眠不足になりながら、それぞれが長期休業でなければできない貴重な体験をしたことでしょう。また、先生方も研修・研究をされてきたことと思います。運動会・体育祭をはじめ諸行事に多忙な2学期ですが、地域の人達と学校の関わりを深める機会の多い学期でもあります。益々多忙感は増大するでしょうが、蓄積されたエネルギーをフルに生かし、実りの多い秋であって欲しいと思います。

～夏休み明けの学級づくり～

40日余りの家庭主体の生活から学校生活へ戻ってきた子ども達にとっては、学校や学級で夏休み前にできていたことができなくなったり、築き上げたことが崩れたりしていることがあります。再確認しながら様々な取り組みを始めましょう。

みんなで気持ちよく集団生活を送るためのルールやマナーの意識が薄れ、夏休み前に身につけていたものも忘れていくことが多いでしょう。そこでまず取り組みたいのは、人と関わる時や集団で生活するときのルールやマナーの再確認です。

9月は、運動会・体育祭の練習、修学旅行があります。練習や各係活動、修学旅行の取組等を通して、学級での存在感を植えつけ、互いに認め合う雰囲気づくりをすることで、集団を高め合うことができます。特に行事が多い2学期は、学級集団を高める絶好の機会です。行事で集団を高める。行事が集団を高める。学級担任の腕の見せ所です。しかし、いろいろな場面で発生する様々な問題に対しては、学級担任一人では対応するのではなく、学校組織として取り組むことが基本です。

<第66次土佐清水市教育研究集会・一日教研（振り返り）>

8月5日（金）の一日教研ご苦労様でした。午前中の全体会では、菊池 省三先生（教育実践研究家）をお招きし、『～ほめられて育つ～学級集団づくり』と題しての講演をお聞きしました。午後は、各部会研修で先生方の自主的、主体的な一日教研になったことと思います。講演の感想を紹介します。

☆「最新学習歴」という言葉、いいですね。
いくつになっても学ぶことばかりです。ですから「最新」ですよ。

☆改めて「怒ってやらせる」ということは、その場しのぎで、子どもの主体性を伸ばすことにはつながらないことが多いことを考えさせられました。
子どもとの関係、子ども同士の関係をより良くしていくために、笑顔を大切にしたいです。

☆大人も子どももほめられると嬉しいものです。ほめ言葉が子どもを育てる、心を育てると思います。
2学期からの学級経営に生かしていきたいと思いました。

☆心に残る講演ということで、これまでのベスト3に入ります。いや、ベスト1に入れたいと思います。菊池先生を講師に選んだスタッフの方々に感謝を申し上げたいと思います。

☆今日はお話しただきまして、ありがとうございました。別の研修でもよくほめることの大切さを耳にします。ほめるだけでなく、勇気づけたり、認める言葉がけもできるように、2学期からは1学期以上に子どもたちの良い面に目を配りたいと思います。「人間関係は鐘である。鐘は先に笑わない」とても心に響きました。

☆ほめ言葉のシャワー、価値語等、学ぶことがたくさんありました。2学期からまた頑張ろうと思います。

☆子どもをつなげる教師の役割を強く感じました。たくさんメモをとることがある講演でした。2学期からの授業や子どもとの関わりに生かしていきたいと思います。まだまだ聞いていたい講演でした。

☆あっという間の2時間30分でした。昨年12月にテレビで拝見し、「なるほど」と納得したり、とても勉強になったりしたことを思い出しました。今日の講演をもとに、2学期から取り組んでいきたいと思いました。

☆有意義な時間でした。菊池先生ありがとうございました。2学期に向け、明るい、前向きな気持ちになりました。ひとつひとつの言葉が心に響きました。「笑顔を送る行きたい学級 につこりに（2年2組）」を目指して頑張りたいと思います。

☆「続けることの大切さ」これを今回の講演の中で1番考えさせていただきました。“ほめる”ということは難しいことで、教師になり続けることが最も難しいことです。自分の目標として短い期間に実施していきたいと思います。とても笑顔になれた講演でした。

☆今日の講演で「ほめる」ことの大切さを改めて感じ、考えることができました。大きな拍手、ありがとう、笑顔があふれる教室を目指して、これからの学級指導をしていきたいと思います。

☆終始美しい言葉遣いで、1分間の間でも価値多き、いくつもの書き留めたい言葉も多く、素晴らしいですね。
子どもの事例では、涙が出そうになったことが数回ありました。ハリーポッターの最終回でダンブルドア校長が「魔法は言葉から生まれてくる」と言ったような言葉があるんですね。
言葉は大切ですよ。案外子どもたち分かっていない。子に分かるように知らせ→その後染み込み、発展させていくことが大切ですが、現実どのくらい関係者が自身に取り組み、実行できているのか…日々振り返りたいものです。まず自身が理解できていないと、子どもへ向けても難しいのでは。勉強になりました。

① ICT活用講座

夏季休業中にICT活用講座を実施しましたので講座内容について報告します。8月18日(木)に実施した講座では、研究所の奥谷研究員を講師に『ICT活用講座』を中心に行われました。参加人数が2人と少なかったのですが、前半は弘田センター長にも参加していただき、逆に和気藹々とした雰囲気の中で楽しく活動することができました。

〈主な内容〉

- ・ICT活用についての説明
- ・ICTを活用した模擬授業について
“NHK for school”の活用
- ・実践校の紹介
熊本県山江村小学校の授業風景ータブレットを活用した取組
- ・パワーポイントの活用(理科クイズを作る:作成・操作等について)



② 第3回あすなろネットワーク

第3回あすなろネットワークを開催しましたので研修内容について報告します。8月23日(火)西部教育事務所 宮上指導主事を講師にお迎えし『引継ぎシートの活用』を中心に行われました。

〈主な研修内容〉

1. 校種間をつなぐために
発達障害等のある幼児児童生徒の支援をつなぐ
(〔例〕就学時引継ぎシート・支援引継ぎシート)
2. 引継ぎシートの目的
子どもたちの将来の自立や社会参加を見通し、一人ひとりの教育ニーズに応じるため
3. 引継ぎシートの位置付け
これまで行ってきた指導・支援内容⇒確実に引継ぎ⇒入学後の円滑な学校生活
作成のポイント:保護者と共通理解を図る
4. 個人情報の取り扱い
幼児児童生徒の個人情報が含まれる:漏えいの防止等、取り扱い要注意
5. 効果的に“つなぐ”ための3つのポイント
 - ①子ども本人の情報
 - ②現在行っている支援
 - ③入学後数ヶ月間に予想される支援が必要な状況及び具体的支援方法
必要な相手に確実に伝えるためには文章化しておくことが有効
6. 保育所・幼稚園等から小学校等へ(引継ぎ4点セット)
〔4点セット:フェイスシート・支援状況シート・就学サポートプラン・同意書〕
・小学校から中学校等へ・中学校から高等学校等へ
〔4点セット:基本情報・支援状況・支援プラン・同意書〕
7. 個別指導計画の内容と作成の手順・留意点
最後に参加者全員で“Equality doesn't mean Justice.”を確認しました。
次回は、11月下旬「子どもの発達と生活リズムについて」の予定です。

書籍紹介

新しい書籍を購入しました。一日教研の講師である菊池省三先生の実践が綴られた書籍です。お読みいただき、是非あなたの教室で試していただきたいと思います。ご利用をお待ちしています!

○動画で見る 菊池学級の子どもたち

著者 菊池 省三

一人の実践者として、自分の教室の事実を「動画」という形で世に問えることをうれしく思っています。おそらく、このような形で教室の事実を示すということは、日本では初めてではないかと思えます。リアルな菊池学級の空気感や雰囲気を感じていただける1冊

○日本初! 小学生が作ったコミュニケーション大辞典

監修 菊池 省三

この本には、34人の学びの事実がつまっています。「人」と出会って自分を見つけた子どもたちの姿が輝いています。ひとつの教室から生まれた、全国のみなさんに読んでもらいたい1冊

○「話し合い力」を育てるコミュニケーションゲーム62

監修 菊池 省三 池亀 葉子

他者と互いを大切にしようための『話し合い力』をつけたい。それは人と楽しく関わっているときに、より強化されます。六角ディベートにもとづき、ゲームの楽しさを通して自分の頭で考える『理論(石・風)』と自分の心に聞いてみる『情熱(火・水)』を意識的に分けて、話し合い力を育てるゲームを紹介している1冊

○菊池省三の話し合い指導術

著者 菊池 省三

この本の中には、本当の『話し合いに必要な力』を高めるためのアイデアがぎっしり詰まっている。(P134)
各「ワザ」は「ねらい」「やり方」説明、「留意点」の項に分かれ、だれでも「すぐやってみようか」という気にさせる。どのワザも、ゲームの要素が取り入れられ、ユーモアもあり、笑いのうちに「話し合う力」が育てられるようになっている。さらに「留意点」には、必ず話すことの苦手な子どもへのあたたかい眼差しがあり、きめ細かな留意点が述べられていて感心する。
4月から先生になった方も、またベテランの先生方も随所にたくさんのヒントを見つかることができる1冊

